

日時：平成15年9月29日(月) 18:30~20:00
場所：仙台市戦災復興記念館 5階 会議室
議長：飯石一明 鉱物学会会長
書記：谷口宏充 岩鉱学会庶務常務委員
出席者：荒井章司岩鉱学会会長、飯石一明鉱物学会会長、
他両学会評議員 29名 計 31名

議題

報告事項

1. 統合雑誌出版の現状と今後についての報告

和文誌編集委員会委員長(藤巻)より編集状況の報告があった。

また、GKKにおいても電子ジャーナル化を行なうことになり、1論文あたり1,000円かかるとの報告があった。

和文誌編集委員会鉱物学会グループ責任者(松原)より編集状況の報告があった。

欧文誌編集委員会委員長(藤野)より、JMPSの電子ジャーナル化を含め、欧文誌の編集状況の報告があった。また、査読者は論文受理が増える方向で査読し丁寧な対応であらうとの要望、更に、JMPS誌への投稿を強くお願いしたいむね要望が出された。

2. 科研費助成金について大谷岩鉱学会常務委員より、平成15年度分として290万円助成されたむねの再報告と、平成16年度の申請状況についての説明があった。

3. 大谷岩鉱学会常務委員より IMA2006-Kobe 組織委員会が30日、集会在31日に仙台市戦災復興記念館会場にて行われるむね説明があり、集会などへの参加が呼びかけられた。

4. その他

宮嶋岩鉱学会評議員より初中等学校教育内容の改善に関して、学会としての意見を提出したいとの申し出があり、そのためのアンケート回答に対して協力して頂けるよう要望が出され、了解された。

審議事項

1. IMA 開催年 2006 年度における鉱物学会年会と岩鉱学会年会の開催地について論議がなされた。多様な意見が出されたが、結論としては IMA2006 年事務局と両学会の LOC (神戸において年会を行なうことは基本的に了解されているが、LOC は未定) とが協力しながら検討を進めるという線が了解された。

2. 2005 年の年会を愛媛大学において開催することを確認した。

3. 学会の在り方を検討するワーキンググループの活動内容(統合に向けていかに活動すべきか)についての報告学会の在り方を検討するワーキンググループの活動内容(統合に向けていかに活動すべきか)についての報告(荒井、飯石)があり、活動内容と発足時期などが論議された。また新たに、統合に向けた作業委員会の設置を決めた。同委員会委員は以下の通りである：

鉱物学会：飯石、土山、宮脇、藤野、松井(世話人)、工藤

岩鉱学会：荒井、吉田(世話人)、石渡、小山内、榎並、中村

4. 合同した場合の学会名について、いくつかの提案が紹介された。

5. 欧文誌の電子ジャーナルへの取り組みについて藤野編集委員長より報告があった。すなわち、J-STAGE 使用に関して科学技術振興事業団から説明を受け、更に“参加レベル”についての説明を受けた。レベルについては、「雑誌公開と論文原稿の受け付け・編集など」が考えられるが、本文内容の公開のみで良いのではないかと、との意見が多数であった、とのことである。また、和文誌についても、J-STAGE 使用は基本的に賛成であるが、内容については公開のしかたをなども含めて、今後、議論を進めて行くむね藤巻編集委員長より報告がなされた。

今回の評議員会は、地球惑星合同大会(2004年5月、千葉幕張メッセ)の際に行うこととした。